

IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第49回会合 発言録

加藤： みなさん、こんにちは。5時になりましたので、そろそろ始めたいと思いますがよろしいでしょうか？まだ参加される方もあるかもしれませんが、それではスタートさせていただきます。第49回のIGF活発化チーム会合です。最初に今日は山崎さん、飯田さんからご参加についてお返事ありましたか？

山崎： ご連絡がありまして、特段ご報告いただく内容はないそうです。

加藤： そうですか。

山崎： ひょっとしたら参加するかもしれないと仰ってましたが、まだ入られてないようですね。

加藤： もし入られたら、何かアップデートいただくということで、政府からのご報告はスキップさせていただいて、西潟様、望月さん何かございますか？特に最近の動きについて、なければ。あとでまた伺いしますが。

西潟： ないです。大丈夫です。データ通信課からはございません。

加藤： ありがとうございます。順にMAGのほうから、河内さんお願いできますか？いくつか動きがあると伺ってますので、よろしくお願いします。

河内： ちょっと待ってくださいね。

加藤： 山崎さん、たぶん河内さんのほうから、

山崎： 資料共有されますよね。

加藤： 資料共有だと思いますけれども。

河内： すいません。これともう1個ですね。これじゃないですね。先週の火曜日の夜に、MAGのリモート会議がありまして、ワークショップと他のセッションへの何件提案されたとか、そういう報告が事務局からありましたので、その報告をさせていただければと思います

す。じゃあ画面共有させていただきます。これで今見えてるでしょうか？もうちょっと大きくしましょうか。

加藤：今見えてますね。

河内：もうちょっと大きくします。アジェンダの承認とか、そのへん飛ばしまして、先程言いました、今年のセッションの提案数等についての事務局からの報告ということで、今ここに数字だけ並べてありますけども、Workshops は全部で 217 件。Open Fora は 72 件。DCs が 23 件。Day 0 は 29 件。Launches/Awards は 29 件。Lightning Talks は 75 件。

Networking sessions は 28 件ということで、計 473 件ということです。これはまだ、事務局によるスクリーニング前の数なので、ここから重複してるものとか、どうしてもそぐわないものとかを事務局でスクリーニングしたということです。これ画面をスクリーンショットで撮ったので、これだと見にくいんですけど、向こうから発表された Workshop についてです。これだと見にくいので別のファイルを、送られてきてるので。共有停止してもう 1 回画面共有で、これかな？これ今、図表みたいな見えてますかね？

加藤：見えてます。

河内：これが Workshop のプロポーザルの詳細ということで、先ほど申しましたけども、Workshop の提案は全部で 217 件でしたけれども、事務局がスクリーニングして不適切とか重複とか、そういうのが 14 件あったということで、最終的に評価をかけるのが 203 件ということです。

どこのどういう人からどのテーマで提案されたかというのは、ここに詳細出てるんですけど。もうちょっと大きくなりますかね。リージョンとしては、意外にアジアが 1 番多いんですけど、Asia が 30 パーセント、Western European and Other Group が 28 パーセント。Africa が 17 パーセント。Latin American and Caribbean が 11 パーセント。Eastern Europe が 8 パーセント。IGOs が 7 パーセント。それから、ステークホルダーグループとしては、Civil Society が 56 パーセント。Technical Community が 18 パーセント。Private sector が 15 パーセント。IGO s、6 パーセント。Government、5 パーセント。それからジェンダーでは、女性が 50 パーセント。男性が 49 パーセント。これ、組織として出しているようなとこ

ろは、ここの1パーセントのところに入っているみたいで、「それがなんでこんな少ないんだろう」みたいなことを、誰か会議中に呟いてましたけれども、これ組織として何か提案を出したとしても、結局提案者って個人名を出さなきゃいけないのかとみんな思って、私もそう思ったんですけど。そうすると個人名の性別を入れると、ほぼほぼ99パーセントになっちゃうのかなって感じがしました。それから、初めて提案するかどうかっていうことで、Yesが45パーセントで、意外に多いんだなと思いました。それから次のページへいきまして、セッションフォーマットは、Roundtableが67パーセント。Classroomが19パーセント。Theaterが14パーセント。それから長さです。90分が54パーセント。60分が42パーセント。30分が3パーセント。それからテーマですけれども、どのテーマで出しているかということで、今年サブテーマが4つありますけれども、1つ目はイノベーションです。2つ目はImproving digital governance for the internet We Want。どっちかって言うと、インターネットガバナンス的なテーマです。3つ目は、Human rights and inclusion。それから4つ目が、Peace, development, and sustainabilityということで、1番多かったのが、AIとか含まれるイノベーション。2つ目がインターネットガバナンス。マルチステークホルダーとか、そういうのが含まれてるんだと思いますけど、それが27パーセント。それからヒューマンライツとインクルージョン、デジタルデバイドみたいな、それが25パーセント。最後のサステナビリティ、開発と平和というカテゴリーが19パーセントということになっています。これは事務局からきたので、このファイルみなさんに共有しちゃっても別にどうってことはないような気がするんですが、一応確認してからまた、今画面上だけでということにさせていただきます。1回これを切って元に戻ります。これさっきのですね。第2回の対面のオープンコンサルテーションとMAGの会議は、6月の最後の週の水・木・金で行われる予定です。26、27、28で行われる予定で、アジェンダはこれから送るとなっていて、まだ来ていません。ちょっと戻りますけれども、このワークショップのエバリュエーションですけど、MAGがワークショップに関しては評価する予定ですけども、MAGのメンバー約40人をさっきのサブテーマの4つのグループに分けて、それぞれがそのテーマについての評価をすることになっていて、その分担とかもう実はきてまして、6月9日までにまず各個人それぞれが評価をして、そのあとグループの中でディスカッションとカリモート会議をして、評価について話し合ったうえで、6月末のジュネーブでの対面会合で最終的な話し合いをしたうえで最終結果を出すということになっています。

ですので、最終結果が出るのが6月末の予定になっています。ということで、次にいきます。来週、WSIS+20 Forum High-Level Event というのが、ジュネーブで行われることになってまして、来年はWSIS+20の本番、25年になると思うんですけど、その今年版が行われる予定で、IGFの事務局では、ここに書いてある2つのセッションを行う予定にしているということで、ちなみにWSIS+20 Forum High-Level Event2024 というのは、5月27日から31日にかけて行われる予定で、誰でももちろん登録すれば参加できます。ただジュネーブ時間ですので、夜中の会議がほとんどという感じです。夜中です。IGF事務局が行うセッションが5月28日の現地時間4時15分なので、日本時間23時とかだったかな。7時間だったと思うんですよね。23時15分からの、Advancing the GDC Principles and WSIS Action Lines っていう。リンクを探していただければと思うんですけど、これを行うのと、もう1つは5月30日の現地時間10時なので、日本は夕方です。17時ぐらいじゃないかと思うんですけど、Journey to“Building Our Multistakeholder Digital Future”ということで、この2つのセッションを行う予定にしているということです。また、展示みたいなものがあるみたいで、ブースをサウジアラビア政府と協力して開設するとのこと。ちなみに、これMAGの会議とは直接関係ないですけども、ICC BASISもセッションを行うとか、いろんなところごとにかくこの5日間に亘って、セッションが朝から夕方までいっぱいあるので、もしご関心ある方はWSIS+20のページ検索すると出てきますので、ご覧になってみてはいかがでしょうかと思います。それから、これはMAGがワークショップの評価の仕方について、特に今年1年目の人にどういうふうにやったらいいかっていうチュートリアルを先々週やったので、その報告がありました。それからストラテジーのワーキンググループの方は、先週日本時間朝の4時~5時だったので私は出てないんですけどありまして、NETmundial+10の報告。それからNETmundial+10で出したFinal Statementについて。それから4月24日に行われたGDC Consultation に意見を出したということで、それについての報告がありました。それからYouth engagement については4月にキックオフのウェビナーを開催して、ユースの人達にどういうふうにIGFに関わっていくかということで、当時4月の中旬ぐらいにこれやったと思うんですけど、4月の末までが締切のセッションの募集に対して、どういうふうにセッションを提案したら効果的に出せるかとか、そういうことも話をしたということです。「ワークショップの評価結果で、どれだけユースから出てるのか分かるのか」って事務局に聞いたところ事務局は、「提案者の生年月日までは分からないのでユースかどうか確認するのは

難しいかも」という答えをしていました。それから multilingual のワーキンググループは、協力者の得られた言語は MAG のリモート会合のまとめを毎回事務局が会議後 1 週間か 2 週間ぐらいのうちに出してるんですけど、それを翻訳したものをウェブサイトに乗せているようです。今のところ翻訳されているのは、中国語とアラビア語がいくつか、全てじゃないんですけど翻訳されたのが載ってるようです。それから AI に関するポリシーネットワークは、今年最初の会合が 4 月に行われて、4 つのサブグループに分かれて活動を行うことを決定して、それぞれ活動を開始し始めているという報告がありました。

それから Cybersecurity の BPF(Best Practice Forum)と Youth Track について、事務局より今年どんなことをやっていくかという報告がありました。詳細は書いてません。すいません。それから DC(Dynamic Coalition)もさっき言いましたけど、23 のセッションが提案されていて、もし同じようなものがあれば一緒にすることも可能だという説明がありました。今年新たに 2 つの新しい DC が承認されたということで、Interplanetary Internet に関する DC と、Financial Digital Inclusion に関する DC が承認されたということです。これたぶんホームページに載ってると思うので。すいません、詳細どんなことやるのか、ちゃんと分かってないんですけど、ホームページに載ってると思います。それから、Vint Cerf が議長をやっているリーダーシップパネルですけれども、一応 MAG のチェア、Carol Roach がこのリーダーシップパネルに入っているのでその報告がありました。4 月 24 日に行われた GDC(Global Digital Compact)のコンサルテーションで、LP リーダーシップパネルと MAG の共同で声明を発表しています。それから 4 月 29 日に、リーダーシップパネルの議長名で GDC における IGF の役割についての公開レターが発表されています。ゼロドラフトを受けた意見書みたいな形になっていると思います。そんな感じです。9 月のニューヨークでの Summit of the Future に合わせて MAG の会合をやるやらないっていう話がありまして、「それどうなるんだ？」って誰かが聞いたら、「予算によるので分からない、予算があればやる」みたいなことを言っていました。ということで以上です。何かあれば。

加藤：ありがとうございました。みなさんご質問いかがですか？飯田様が入られましたね。もしみなさんまだなければ、まず私から河内さん 1 ついいですか？

河内：はい。

加藤：ワークショップが今年 217 件か、このちょうど下に見えているところに 215 件と書いてありますけど、

河内：違いますね。

加藤：若干たぶんさっき言われたように、数え方でずれがあるのかもしれないんですが、いずれにしても去年の数の半分強ってうか。

河内：半分以下だと思います。

加藤：400 いくつかありましたよね？

河内：440 とか 50 とか、元の数が。スクリーニング前がそれぐらいあったはずなので。スクリーニング後で 398 とかだったと思うんです。

加藤：そういう意味で言うと今年は競争率が下がって、実際は会場の制約があるかもしれないけど、半分ぐらいは合格する感じなんですかね？

河内：「いくつ通せるんだ」みたいなことを誰かが MAG の会議中に言ったら「いや、それはまだ分からない」みたいなことを言ってたので、そこ不明なんですけど、おそらくもう少しばらしたら出てくると思うんです。要するに MAG で少なくともワークショップの評価をする時に、個人がそれぞれのセッションに関して評価を付けるのはいいと思うんですけど、そのあとグループで話し合う時に、どこまで通せるのかっていうのは 1 つのラインがないと、話し合いの際にそこは結構重要なので、6 月 9 日までに個人でやってそのあとグループで話すって言うので、そのへんには出てくるんじゃないかとは思いますが、今はまだ分からないと言われてます。この 215 件の内どれぐらいセッションを行ってもらえるのか分からないと言っていました。

加藤：あと Day 0 が 29 ってさっき出てましたけど、29 だと結構これも合格率高いかなって気がしたんですが、Day 0 も当然ワントラックじゃなくて並行して今まで通り行われるわけですよ？

河内：私京都（の IGF 2023）は出ましたけど、その前とかあんまり出てないんでよく分からないんですけど、とにかく去年はセッションがたくさんあり過ぎたと。朝の 8 時半から夜まで。「朝の 8 時半からなんて早すぎるから、もっと遅くからにしろ」とか、みんな好き勝手なことないだの会議で言ってたので、京都の時ほど部屋数とか、時間も始まる時間がもうちょっと遅いとかってこと考えると、セッション数もうちょっと少なくなるのかもしれないんですけど、それにしても 29 であれば、そんなに無理なく入るんじゃないかっていう気はするんですけど。ただ会場の部屋が、例えばエチオピアの時って会場の部屋いくつありました？7 つとか 8 つとか。そんなになかったんでしたっけ？「すごい少ない」って言ってたような気がしたんですけど。

加藤：前村さんとかご存知なのかな？

河内：忘れちゃったけど、MAG でワークショップの数を絞らなきゃいけない時に、すごい絞らなきゃいけないって、「部屋の数が多いからしょうがないんだよ」みたいなことを聞いたので。

前村：京都はうろ覚えですけど、10 パーぐらいになってたと思うんで。

河内：もっとありましたよ。12、11 みたいな。

山崎：確か、最大 13 あったと思います。

加藤：そうですね。ただ、Day 0 とかこのへんは IGF の事務局が決めるんですよね？

河内：そのはずですよ。

加藤：今回は部屋がどれぐらいになりそうだっていうヒントは、まだ特に MAG のほうから、

河内：それも全然出てきてないです。また情報があったら。

加藤：ただ 6 月末にもうワークショップの数が最終的に決まってくわけだから、今回もうじきそう意味じゃ MAG の方には、ワークショップ 4 つのサブグループでどれぐらい絞るっていうか、そういうサジェスションが出てくるんですよね？ きっと。

河内：出てくると思います。今はまだ出てないですけど、ただ去年京都であんだけ部屋数があっても、通ったのはワークショップで80なので、今年タウンホールなくなったのでそういう意味では少しその分増やせるかなとは思いますが、それにしてもいって100なのかなって感じですけど、どうですかね？ 例年で考えるとどうなのか、私そこ分からないんですけど。

加藤：分かりました。私ばかり喋って、みなさんご質問とかございますか？ 他に。AIのポリシーネットワークとかダイナミックコアリッションとか、いろいろ他のことも出たかと思うんですが。いろいろご質問ございませんか？

河内：西潟さんが手を挙げてらっしゃる。

加藤：失礼しました。西潟さんお願いします。

西潟：せっかくなんで1個だけ質問をさせていただきます。Interplanetary Internetのダイナミックコアリッションのところをご紹介いただいたと思うんですけど、これってというのは出来るってことが決まったというのが今のステータスっていう理解で合ってますか？

河内：もう承認されたと言っていましたので、事務局にたぶん「こういうのやりたい」っていう提案みたいなのが出されて承認されたんだと思います。

西潟：じゃあホームページとか見てみます。このコミュニティの人は宇宙好きですもんね。最後のは独り言ですけど、ありがとうございます。

加藤：他、ご質問ありますか？ 入られたんですが、飯田さんも何かMAGの関係とか情報とかございますか？

飯田：遅れて入りまして。特に私から今回は付け足すようなことはございません。今年若干、去年に比べると低調なようですけど、是非質の高いものが実現すればと思っておりますので、みなさんよろしくをお願いします。

加藤：あとでセッション提案した方のお話も伺いたいなと思ってるんですが、日本政府から何か提案されてるとかそういうことは特にないんでしょうか？ 今年も。

飯田： オープンフォーラムを2つ提案しています。

加藤： 分かりました。もし今ご披露いただくでも、あとでもいいですけど、こんなことやってるよっていう情報交換も今日出来ればなと思ってるんですけど、いかがでしょうか？

飯田： じゃあセッションのお話の時に、もし出来れば簡単にご紹介します。

加藤： 分かりました。じゃあ、MAGの河内さんのご説明に関して追加、ご質問とかございますか？ みなさん。河内さん、ありがとうございました。

河内： ありがとうございます。

加藤： 次、アジェンダに沿っていくとNRIですけれども、これやはり河内さん・山崎さん、今日の夜中にNRI次あるんですけども、何か今の時点で前回に加えることって、なんかございますか？

山崎： 前回も活発化チーム会合の日の晩にNRI会合が開催されました。最近毎回そうなりつつありますが、前回逆に4月の会議の報告が十分出来てなかったんで、今日はそれをしようと思います。

加藤： お願いします。それは3つのセッションの件ですか？ それともNRI全体としての動きですか？

山崎： 3つのセッションです。

加藤： お願いします。

山崎： 前回の活発化チームの会合が終わってから1時間少々に開催されました。NRIの会合としましては、かなり早い時間にやってくれたんで、こちらとしては楽だったんですけど、毎回そうはいかず今日は、

加藤： 今日は夜中12時からです。

山崎：0時からで、前は3つのセッション。だからIGF 2024でNRIセッションとして開催する3種類のセッションについて、次のように共有ならびに議論が行われました。まずは、NRI Collaborative Sessionということで、3つセッションの準備をしていると。4月30日のプロポーザル案が共有されたと思うんですけども、この時に出てたものがそのまま提案されていたと思います。Coordination Session、これは1個だけですけども、Day 0に90分ということで、WSIS 20周年記念のためにNRIができることということをやったらどうかという提案がありました。それで準備が進んでるということになります。次、NRIのメインセッションですけども、これはAIガバナンスが焦点となり得るんじゃないかということでした。次回は今日ということです。このメインセッションのテーマを引き続き検討ということと、コーディネーションセッションのアジェンダのフローについて、アイデアを共有することを中心にしてやるということです。今日の会合に向けたアジェンダが回ってきていて、まずはNETmundial+10の報告をやるというので、これはたぶんブラジルのIGFに関わってる人。具体的には、CGI.brのVinicius Santosさんが報告してくれる予定ということになっています。NRIのメインセッションについて主に時間を半分ぐらい使うということです。それとコーディネーションセッションについて、その他というアジェンダとなっています。あとはおまけですけど、Youth Trackのウェブが出来てます。だから今年のリヤドのIGFに向けてユースの方々が、Youth Summitについて、これもAIがフォーカスということになってますけども、検討を進めているということのようです。

その前哨戦として、各地域のIGF、欧州でしたらEuroDIGのユース版、YOUthDIGと言ってますけど、それと、2つ目がAPrIGFです。3番目がLACIGF。ラテンアメリカ・カリブ海地域。4つ目がAfrican IGFということで、IGF 2024の会議中にユースサミットをやるという段取りになっているということでした。私からは以上ですけど、河内さん、加藤さん、何か補足があればお願いしたいと思います。

加藤：ありがとうございます。河内さん、ありますか？

河内：3つのグループに分かれていて、登録したのが結構ぎりぎりだったと思うんです。私登録してディスインフォメーションの担当でお願いしたら、その日かなんかに会合があって間に合わなかったんです、参加が。あとから来てるので報告をまとめようと思いつつ、ま

とめてなくてすいません。IGFのセッションの提案の内容についてももう議論されていたので、もうちょっとこの先はちゃんとフォローしていけたらと思います。すいません。

加藤：僕のほうから。僕は一応ニューテックのセッションのコラボラティブセッションのフォローをしてるんですけども、前回メールでも書きましたように、かなりもう枠組みが決まっています、コラボラティブセッションが1番早くに決まっています、アジアからもスピーカーのコーディネーターの候補が出たりしてしまっていて、さっきメインセッションでもAIが結構注目されんじゃないかっていう話ありましたけども、ニューテックは去年の京都ではAI一色だったんですが、今年はAIに絞らないでいろんな話をしようというようなことは言っています。ただAIがかなり中心になると、それからNRIだから、途上国、特にそれぞれの国でニューテックってどんな状況なんだと。どういう課題があるのか。そういうことをなるべく出せるようなセッションにしようということで、大体枠組みがもう決まっているということです。今日の夜、NRIの全体セッションがどういう感じになるかですけども、そこはかちあわない感じで、AIを話すにしてももう少し全体的な話になるのかなと思っています。私からはその程度ですけども。NRIに関していかがでしょうか？全体、京都でもそうだったんですが、かなりの時間を取れるのと、いろんな人とのコミュニケーションがあるという可能性があって、その関係で去年、AIに関するポリシーネットワークの話がありましたけども、西潟さんそこには今年何か動きはあるんでしょうか？個別の具体的なことをフォローしてないんですけども。もう去年は去年で、1回やり取りして終わっちゃったんですか？

西潟：今年も、他の仕事でどたばたしてて第1回の会合に出れてないんですけど、メーリングリストには残しといてくださいとか、そういったところで残ってるんだと思います。たしか4月24日とかに第1回やったのかな。そのあとの連絡はまだ来てないので、4つのワーキングっていう話、さっき河内さんからいただいたんで、サイトでも覗いてみようかなと思ってました。

加藤：分かりました。

河内： 言ってたのは、4つのグループに分かれて、それぞれのメモ取りじゃないですけど、責任者っていうほど重責じゃないけど、それぞれのまとめ役みたいな人は決まったみたいなことを言っていました。でも実際の活動はまだこれからみたいに言っていました。

西潟： そうだと思います。そこのボランティアは引き受ける気がなかったんでスルーしてました。さすがにちょっとキャパ的に責任持てないんで。その先のフォローはしてなかったんですけど、逆に NRI でも AI 結構やられるんですよね？ さっきいろいろ山崎さんのやつだったかな。

河内： ニューテック。

西潟： AI ガバナンス fou Youth みたいなものもあるし、ニューテックも。

加藤： 一応3つの中のニューテックの中には入ってるんですよね、AI は。3つの中では。

西潟： どこまでやるんですかね？

加藤： いや、さわりだけだと思います。

西潟： というのは、去年も結局私、最初 NRI の流れでお話しいただいて、その PNAI のほうには行ったんですけど、NRI のほうでどこまで AI やったかって私もちゃんと追っかけてなくて、自分のほうだけで手一杯だったんですけど、やったらやっただ UNESCO も OECD もどこもかしこも AI やってるだけに、IGF の中でもどこもかしこも AI みたいな、旬だったことであれば、それはそれでいいんですけど、誰もトータルのそこは気にしてないっていうのも IGF っぽくていいんですけど、そういう状態であるという認識を持っていいのかわかっていうので、ご存知のことがあればお聞きしたいと思ひまして。

加藤： 私が申し上げるのもあれですけど、一応3つのテーマの1つを担当しているんですけど、去年と感触は変わらないんじゃないかなというふうには思ひます。

西潟： 逆に、PNAI と連携しましょうとか、そういう話はないですよね、という確認なんですけど。雰囲気的に。

加藤：連携というか、NRI が PNAI と連携というか、やってる人がかぶさって出てきたのはあると思います。だから NRI からそういう話は出てきましたね。PNAI の話は。エキスパートを探してるとか、去年そういう流れがあったと思うんですけど。だから、そういう意味じゃ正式連携かどうか分かりませんが、動きはフォローしようっていうことはありますね、PNAI の。

西潟：ありがとうございます。ていうのは、PNAI がどこまでアクティブになるかは PNAI の事務局次第なんですけど、これ 2 周目じゃないですか、少なくとも。IGF なので、私も総務省の帽子を今脱いで発言しますけど。脱いだとは言っても、被ってるというとられ方をしてもいいような発言しかしませんけど、もしせっかく加藤さんとか参加されるということであるならば、2 年目は成果物と言いますか、出てきたもの、あるいは出てくるもののレベルについてもご配慮いただけると。少なくとも日本の帽子は被ってらっしゃると思いますんで、どの帽子で行くにしても。飯田さんが取りまとめた広島 AI プロセスとか、8 年前から飯田さんが関わってらっしゃる OECD の AI の理事会勧告の議論とか、そういうのと比べると少なくとも去年はですよ、今年の昇華に大いに期待なんです。去年やってた IGF での AI の議論は、セッションとしてのパフォーマンスは確実に良かったと思います。オンステージに立っちゃえば。弁が立つ人ばかりいたし、バラエティも多かったしなんですけど、成果物のレベルは最低 2 周遅れ、というのが私の認識。IGF が恥かくことになる。しかも GDC からも、NRI のほうはどこまでそういう位置づけがあるのか、今の段階で知らないんですけど、PNAI のほうはいろいろと IGF の本店さんとやり取りをして今に至っていて、特急券というか先出しで活動が承認されたとかいうお話も河内さんからこの会合を通じてお聞きしてた中で、せっかく日本から参加していただく、別に日本政府がやってることを完全に踏まえて何かをしてくれって言うつもりは、この場では私はお願いするつもりはないんだけど、他方で日本から参加される、半分コンセンサスのレベルとして、そういったところのご提言していただいて、底を上げていただけるといいのかなと雑感めいたところではあるんですけども、思ったので共有させていただきました。

加藤：ありがとうございます。他、NRI について何かご質問とかご意見ございますか？

山崎：山崎からですが、加藤さんがおっしゃった3つというのは、NRI コラボラティブセッションが3つあるということで、加藤さんと河内さんから報告があったので私からなんですけども、これは一応4月24日に会議がありまして、その内容は翌日にMLにポストしてますんで、そちらご参照いただければですけども、DNSの業界における、underserved countries、あまり十分に提供されてない国々ってところのinclusionということで進んでおります。

ただ、スコープがDNSってというのがどこまでなのかっていうところが、どうもその時の会議の内容を見てると、よく分からないっていう感じだったんですけども、もうちょっと広くなるのかどうかってところを指摘はしていますが、実際どうなるかはその後の議論を待つしかないかなというところです。以上です。

加藤：ありがとうございます。NRIはその程度で今よろしいでしょうか？他、ご質問ご意見ございますか？もしなければ、次にNETmundialの状況をご報告ってことで、前村さんをお願いしてもよろしいですか？

前村：それでは画面お借りしようと思います。スライドまだ準備できてないんですけども、先日結構早めにJPNIC メールマガジンっていうのがありまして、News&Viewsという名前にしてるんですけども、そちらのほうで記事を書きまして、それをご覧に入れながらご説明していきたいと思います。もし、このメールマガジンにご加入なさってない方は、是非ともこの機会によろしく願いますという感じで。じゃあ進めてまいりたいと思います。まず+10なんで、2014年にやったNETmundialっていう会合がありましたよねっていう話から書き出してるんですけども、その時に少し面白いかなと思って書いたのは、その時の政治的な状況下が、時のICANNのCEOだったFadi Chehadeが、時のブラジル大統領Dilma Rousseff、女性です、に対するエンゲージメントの一環として計画したということで、実はNETmundial 2014年なんですけども、2013年に技術コミュニティーI*という、ISOC、IETF、RIRみたいな人達のことをI*（アイスター）って言うんですけども、この人達が集まってモンテビデオで会議をやった時に、モンテビデオ声明っていうのを出してるんです。この時にはもうすでに、「エンゲージメントやっていかないといけないね。Rouseffに、国連で吠えるんじゃなくてマルチステークホルダーで頑張ってるよって言おうか」っていうふうな

ことを、実は相談してたんです。なので、モンテビデオ声明にグローバルな協力体制への努力移行というふうなことをほのめかしていたのが、実は NETmundial だったんです。それで 2014 年、私 EMC として、エグゼクティブマルチステークホルダーコミッティなんですけど、EMC に参画して、2014 年の Statement の起草に一応一員として参画しました。その時にすごく印象的だったのは、Google Docs、今でこそ普通に使ってますけども、当時初めて全世界から参加して Adobe Connect でつながって、Google Docs の画面見ながら手元にも Google Docs の画面も出して、そこにカーソルが人数分あるわけです。もう、テキストの編集をやっているのがすごい強烈だったんですけども、今回も全く同じことやったっていうことで懐かしかったですね。そういうふうなことを言っていくと、いくらあっても時間は足りないので、基礎プロセスを始めましたけども、なにせ 10 年前よりは 1 カ月ぐらい（短い）、10 年前は 3 カ月かけたものを 2 カ月でやるというちょっと無理筋だったような感じがしているんですけども。

そうは言ってもコントリビューションをみなさんから募って、それに従って起草していきましようというふうなことをやりました。コントリビューションで、質問事項に答えていた形でいろんなことを聞くという中で、デジタルガバナンスプロセスの原則ということと、マルチステークホルダー機構の実装ガイドラインというものと、他の進行中のプロセス、GDC や WSIS+20 に対する意見ということで意見を受け付けました。それに起草していくんですけども、3 つのセクションにサブセクションも含めると、ペンホルダー全員で 6、7 人ぐらいいたと思うんですけども、その 6、7 人のペンホルダーが頑張って書くということです。ということで、暫定版の成果文書を出してっていうのが 4 月 26 日で、4 月の 29、30 日で、Grand Hyatt São Paulo で会合をやりました。違いとしては、2014 年は Marco Civil da Internet っていうインターネット市民権基本法とでも訳したらいいんだと思うんですけども、それを制定して大統領がそこで署名するっていうセレモニーっていうこともありましたし、また政府諮問委員会というものが、NETmundial の会合自体にあったので、結構政府色が強かったような感じがしていますが、今回はそこまで政府色はなくて、参加しているのは、G20 の会合があるので政府の人達はアクセスが良かったと思うんですけども、基本的にはマルチステークホルダー推しをしているスイスだったり、（日本政府からの）HLEC（ハイレベル実行委員会）メンバーの、残念ながら当日会場にはお入りになってなかったですけ

ども、飯田さんもいらっしゃってということで、マルチステークホルダーの指示を非常に明確に出している政府っていう人達が、ここにいたという感じだったろうと思います。2日間で、全部でセッションは8つぐらいあるんですけど、その中の3つをワーキングセッションと言って、preliminary outcome document（暫定成果文書）に対して意見を捨っていくという形でやりました。最後の3つ目のワーキングセッションは私がモデレーターを務めまして、私が英語をすごく器用に使うわけでもないのですが、「次あんた」っていうのが、お役目としては1番手頃なんじゃないかと思いつつやっていたんですけどまあ大変で、壇上で意見をいただきましたということです。それで、ワーキングセッションが終わってもセッションはいくつかあるんですけども、そのセッションっていうのはclosing（閉会式）だったりway forward（今後の道筋）だったりっていうセッションがあったんですけども、そのへんのモデレーターだけ会場に残して、あとは全員HLEC部屋に引きこもって、そこからがりがり修文していくっていう感じなんです。修文も最初はそんなに「プレリミナリーからあんまり変えるところないんじゃないの？」ってことを言っていたんですけど、なんのなんの。がりがり変えてますんで、すごい頑張ったセッションだなと思いました。残念ながら一部の方ご存知なんですけど、実はこのワーキングセッションの3番目で、メールマガジン記事には書いてないんですけど、セッションで緊張しすぎたのか知恵熱が出たというのが、高熱を出してしましまして。私は部屋に引っ込んでZoomで参加する形になってしまったんですが、すごくがりがり修文をしてましたということです。出来たものは、最初の最初NETmundial+10ってやるんだっていう時に冷ややかな物言いもあったんです。「またブラジルの肩持って何してんだよ」とか「こんなにラストミニッツに決めてやって、ろくなもんにならなかったらどうすんだよ」とか言われたんですけども、そこはHLECも頑張りましたし、世界中のステークホルダーの方々も150を超えるコントリビューションを頂いて、がりがり書いて出したものは非常に良いものが出来たんじゃないのかなと思っています。これ、ドキュメントそのものなんですけども、まずは2014年のprinciple（原則）が今も有効かなというところを検証していくんですけども。

まず1番大きいのは、2014年ってInternet Governance Process Principlesなんですけども、2024年の+10では、このインターネットガバナンスという言葉全部インターネットガバナンスとデジタルポリシーというふう書き換えています。もう置換した感じです。なので、

インターネットだけではなくて、AI も含むデジタルガバナンスに対してマルチステークホルダーアプローチをやるんだということを、非常に明確に出しています。それが1つ目のポイントなんじゃないかなと思います。もう1つは、プロセスのガイドラインというものを非常に明確な具体的なものを書いたというのがこれです。São Paulo Multistakeholder Guidelines って名前を付けてるんですけども、ここの1番目から始まるのがむちゃくちゃ具体的です。マルチステークホルダーによる consensus-building や decision-making っていうのは、こういうふうにするんだというのをすごく明確に書き出してるんで、これを読んでいたらプロセス出来ちゃうなっていう感じの具体的なものが出来上がったというふうに思っています。もう1つなんですけども、ちょうど auDA と CIRA っていうのは ccTLD、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、UK なんですけども、これらが共同声明を出して技術コミュニティが連合して WSIS+20 や GDC とか、政府間のアリーナにおけるディスカッションに対してちゃんと物言っていかなきゃいけないと言ってまして、それと同時に彼らの熱量が非常に高かったということが言えると思います。その上で NETmundial という政府間ではないマルチステークホルダーの場でこういうふうな活動量を出して、それも政府のマルチステークホルダーリズムを非常に明確に支持をしている政府の人達と一緒にやっていったっていうのは、非常に大きな意味があったのではないのかなと思います。あとは記事やドキュメントをご覧いただければと思います。JPNIC からもこのドキュメントに関しては和訳を取り掛かっているところなんですけども、まあまあ手を入れていかないと日本語が綺麗になっていかないなと思ってまして、ちょっと時間がかかると思います。2014 の声明は日本語訳を出しておりますので、今年も出そうと思ってます。というわけで、御託も多かった、蛇足なことも多かったと思うんですけど、以上でご報告といたします。何かご不明点などあればお伺いします。いかがでしょうか？

加藤：ありがとうございます。ご質問、みなさんいかがですか？上村先生からチャットでコメントされてますけれども、上村先生もしよろしければご質問いかがですか？

上村：ありがとうございます。チャットに書いた通り、前村さんがそんなにお辛い状態だったとは、お見舞い、今さらながら、申し上げます。

前村：恐れ入ります。

上村：それはともかく、マルチステークホルダープロセスとはかくあるべしってことについて、なんでこのタイミングでそんなに細かく書くことになったのかっていうあたりが質問なんですけど、なんか分かりますか？

前村：これ、私の感覚になってしまうかもしれないんですけども、技術コミュニティとしては、これ1つ背景として分かりやすいのは、さっきの auDA の joint statement (共同声明) のページがあるんですけども、そこ見ていただくと分かるんですけども、インターネットをちゃんと動かすためには、マルチステークホルダープロセスが非常に重要で、マルチステークホルダープロセスがどこかのステークホルダーが強い権限を持つことによって棄損されてしまうと、インターネットはインターネットでなくなる。インターネットは動かなくなるという、かなり大きな危機意識を持ってるんです、技術コミュニティは。CGI.br も同じようにマルチステークホルダーリズムっていうのを非常に推しているところであります。実は NETmundial+10 という名前にしないかとも思いながらも、とにかく政府間アリーナじゃないところで、インターネットのガバナンスやデジタルポリシーに関して、話し合わなきゃだめなんだというところは、CGI.br も非常に共感をしてるというようなところが1つ背景なんじゃないのかな。そうすると、マルチステークホルダープロセスっていうのは、こういうふうにあるべきなんだということを非常に articulate (明確に表現) しなきゃいけないかったというふうな流れだと私は理解しています。いかがでしょうか、上村さん。

上村：ありがとうございます。それはよく分かるんですけど、そうすると multistakeholderism in danger (マルチステークホルダーリズムの危機) みたいな感覚があるとして、それがどこから来てるのかっていうあたりが、次の疑問なんですけど。どこからと言うのは、例えば GDC 周りの大波もあるでしょうし、それ以外にもあるかもしれないんですけど。危機の源は誰だっていう感じなんですか？

前村：1番そこだと思います。政府間組織でデジタル政策が重要だ、インターネットガバナンスが重要だ、そりゃそうなんですけども、変なこと決めないでよと思ってる。そこが1番強い懸念なんです。こういう WSIS+10 とか GDC とか、いろんなもんが動いてるところで、ゼロドラフトで技術コミュニティがすごい矮小化されてしまっていて、本当にこの人達インターネットがどう動いてるのか知ってんのかなみたいなところが、すごく強い懸

念があったわけです。それでリビジョンワンのドラフト、GDCのリビジョンワンになると相当それは改善されているので、頑張っって主張して良かったという感じがあるので、それに尽きるんじゃないのかなと思ってるんですけど、どうでしょう？

上村：分かりました。ありがとうございます。みんなこのへん気にしてるようなので、私も含めて。大きな議論のトピックになるんだらうなという印象を持ちました。ありがとうございます。

前村：ありがとうございます。

加藤：他の方がいいかでしょう？他の方、質問をお考えかもしれないですけど、私から1つ。最初に今回2014年と違っって、インターネットガバナンスだけじゃなくて、インターネットガバナンス&デジタルガバナンスっって確かおっしゃられたと思っますが、そのところの言葉を広くするっっていうのは、元々のインターネットガバナンスが狭い可能性があるのでなんですか？それともイシューがもっともっ広がっって、そう言っったほうが正確だと思っ感じなんでしょう？そのへんの感触はどうなんでしょう？

前村：イシューが広がっって、インターネットとデジタル政策のプロセスと言わないといけないう、イシューが広がってるっっていうところがメインです。

加藤：その広がっった定義っっていうのは、IGFなんか言ってる定義は結構広いと思っんですが、インターネットガバナンスっ言う時に。それよりもさらに広いっっていうか。

前村：デジタルっってなんでもですよね。AIになると最早、インターネットなしにAIは出来ないうと思っが、AIは果たしてインターネットなんだらうかと言っると、それは違っような気がしまっすよね。なので、デジタル政策というのをいちいち付っけているということ。それに比べると2014年は、まだまだインターネットというものが、やっぱり何よりも重要だと思っう感覚が私にもあっったような気もしまっすので、それは適切なんじゃないのかな。ちよっと余談になるんですけども、そうするっっていう話があっって。インターネットの技術コミュニテイというのはとても分かりやすいんです。インターネットの技術的な調整をやってる団体の人達っっていうのが狭義で、インターネットが技術的にきちんとして動くことを第一義的に考える人達というふうにすると広義になるんですけども、そうするとAIのポリシーを考える時の

技術コミュニティという言葉遣いはどこまでになるんだろうという大問題を見つけてしましまして。

これ技術コミュニティのバックチャンネルでいろいろと議論しながらやるんですけども、そこでも結構な議論になってしましまして、そのへんは結構難しい。考えていかなきゃいけないことなんだろうと思います。すいません、脱線しちゃって。

加藤：私もまさにそのこのところに関係して、先ほど GDC の動きを見てみると、いろいろと広い範囲で、例えば IGF はこれだけやればいいみたいな書き方をしてますよね、今のドラフトでは。そうすると、こういうことだけやればいいっていうところにテックコミュニティが押し込まれちゃうのかなんていう心配もあるし、そういうふうに定義しちゃうと。だから、そこをどう解釈してるのかなっていうのは非常に興味があると思ったんですけど。

前村： マルチステークホルダーのセグメントも、NETmundial は伝統的に、Civil Society、Academia、Government/IGO、Tech (Community) と Private (Sector) っていう 5 つに分けるんです。それは IGF のセグメントの分け方とちょっと違います。academia がないので。それも 1 つおもしろいところだなとは思いますが。

加藤： 他の方がいかがでしょうか？ ご質問とかご意見ございませんか？

前村： どうぞ。

山崎： あとでいいです。

前村： また余談なんですけども、いくつか某所で河内さんからご指摘いただいているんですけども、「NETmundial は失敗だ」って言うてるミルトン・ミュラーさんみたいな人もいるんですけども、ミュラーがなんで失敗と言ってるかというのと、批判は受け入れなきゃいけない、建設的に受け入れなきゃいけないと思うんですけども、どうもそんなに大したこと言っていない。例えば、「ステークホルダーが HLEC のコミュニティに入ってる人達が、ちょっと構成がいびつなんじゃないの？」とか「北米がいなくて、なんでラテンアメリカがそんなに多いの？」とか、いちいちいちゃもんだけ付けてる感じ。要は自分が入らなかったことが悪いって言うてんじゃないの、みたいな感じがする。ただ、ミュラーによる批判的なブログポ

ストもありますし、それも読んでいただけるといいんじゃないのかなと思います。どうもありがとうございます。

加藤： どうもありがとうございました。また引き続きご質問あれば前村先生にお願いするとして、GDCの話も出ましたけれども、ドラフトワンが出てきて何かこれについてご意見とかコメントとかいただく方っていらっしゃるでしょうか？ この延長でここで挙げちゃいましたけど。GDCに関してなんかございますか？

山崎： 山崎ですけども、まだ中身をちゃんと見れてないので中身についてのコメントは出来ないんですけども、明日の晩、火曜日の 23 時から水曜日の 1 時まで、リビジョンワン、ゼロドラフトの次の版が先週出ましたので、それについて政府以外のステークホルダーから意見を受け付けるという会議が、国連ニューヨークで開かれます。まだ申し込めるかどうかは分かりませんが、先週末の時点ではまだ申し込めました。オンラインのみです。ですので、理想はちゃんと読み込んで意見を言うということなんですけども、なんせ出てから意見を言う会までの日が短いもんですから、なかなか厳しいなというところで、そういう意味でもオーストラリアの ccTLD、auDA などが連合を組んで取り組むというのは、非常にいいやり方だと思いました。単なるコメントというか感想です。以上です。

加藤： ありがとうございます。他の方いかがでしょうか？これについて特にございませんか？

これもまた何か情報が分かれば。このあと、こういう機会がまだ山崎さん、あるんですか？ドラフトワンが出てきてそのまま 9 月に突入しちゃうのか、コメントが出てまたあとが出てくるのか。そのへんのプロセスもよく分からない。

山崎： それは分からないんです。

加藤： 分からないですよ。

山崎： 政府向けには、

加藤： あるですよ。

山崎：セカンドリーディング、サードリーディングっていう案内が行っているみたいですが、このリビジョンワンが出てからは政府でリーディングをやるということと、明日ステークホルダー向けの会議をやるということしか発表されてなくて、前回は4月後半に同じようなことをやってるんですけど、次の予定っていうのは、実際にステークホルダー向けの会議が始まって、最後のほうに司会役の人から「次回は5月23日」って言ってましたけど、2日早まって21日に。だから予定が立てられないんです。ただ逆に言うと明日が最後ではなくて、今回のステークホルダーミーティングなり政府間のミーティングなりで出した意見なりを集約して、セカンドリビジョンが出るとすれば、またやるんじゃないかなという希望は持ちますけれども、それが必ずあるという保証はないというのが実情です。そういう意味では、あとのほうになればなるほど文面を変える余地は少ないでしょうから、なるべく前の段階で言うべきことは言うておくというのが理想ということになるかと思います。

加藤：ありがとうございます。いかがでしょうか？政府関係の方でご存知の方、もしコメントしていただけることがあればお願いできればと思います。これ以上ないでしょうか、今。

山崎：そういう意味では飯田さんに、もし発言可能ならお伺いできればと思うんですけども、総務省さんからはGDCのドラフトに関する政府間プロセスには参加いただいていると思うんですけど、その内容を共有いただくとか今後の見通しとか、もしご存知であれば教えていただければと思ったんですが、いかがでしょうか？

飯田：5月頭だったかな。1回コメント出していて、今回のやつを今見始めるとこなんですけど、正直まだちゃんと見れてなくて、次の期限が6月の頭かと思いますんで、それまでにこれから見ようというところです。実はさっきの前村さんのNETmundialの時期に、われわれパリのほうで同じくぶっ倒れておまして、OECDの閣僚理事会でAIの議論をやっていたもんで、それが終わってやっと一息ついて、これからGDCにまた本腰入れようというところでございまして、今日は勉強させていただいてますけど、こちらの検討はこれからというところなんで、また進んだらご紹介しながら、擦り合わせして進んでいければと思ってますが。すいません、今日のところはあまりご紹介できる中身がないです。

加藤：ありがとうございます。

西潟：では飯田さんもおっしゃったんで私からもひと言言っておくと、どこまで細かく言うかはさておきとして、たぶん各国の役人はあれを全部骨抜きにするみたいに、「ここも消せ、あれも消せ」ってたぶん骨組みの背骨しか残らないようなコメント出してるはずなんですよ。少なくとも西側の人達は。私もその中の一人ですけど。特に AI とかあっちのほうは。たぶんその背景は、AI だけに限らずなんですけど、国連が各国政府に GDC の枠組みに変なものを発注するのを、とてもわれわれは嫌がってるし懸念してるんです。例えば、AI 一個とっても OECD から毎年のように「日本って何やっていますか？」って今だと 100 問はないかもしれないけど、サーベイが来るんですよ。UNESCO から来るんです。その上に今度 GDC についてやられると。これが 1 番役人は嫌なんですよ、率直に言うと。なんで、重複は勘弁してくれ的なコメント、たぶんすごいたくさん各国から出てると思います。少なくとも先進国組というか、西側諸国少ないかもしれないですけど。他方で、グローバルサウスからしたらここしかないんで、ここ頑張れって話になって、どっかで折り合い付けてくれるんだと思ってます。AI のほうは私も直接はもうあまり、少なくとも GDC の枠組みには関わってないのであれなんですけど。これメーリングリストでどういうやり取りしたのか、私も詳細覚えてないんで喋り過ぎないように気を付けながら喋りますけど、以前確かこの GDC のドラフトの中に、テクニカルコミュニティが入ってないっていう問題の指摘は私も聞いていて、他の人達からもご指摘があったと聞いていて、そこはたぶん直ってるんですよ。なんで、これ維持していくっていうと 1 つ、どこのステークホルダーの方に限らず見ていくべきポイントなんだろうっていうのはあると思います。その次に、飯田さんから先ほどいただいた通り、私も次のバージョン見きれてないんで、私もこれから勉強なんですけど、インターネットガバナンスのチャプターがありますよね。そこに関しては、前村さんなり山崎さんの組織だとか、高松さんの組織もそうですけど、個別にレッドラインで「これなんとならないの？」というのがあればご相談ください。そこは政府の役割として、たぶん連携の余地があると思ってますんで、バイ（個別）でどんどんメールいただければと思います。ありがとうございます。

前村：ありがとうございます。承知しました。

加藤：どうもありがとうございます。西潟さん、飯田さん。他の方はいかがでしょうか？ GDC はとりあえずそういうところでよろしいですか？もし何かあとであれば、またお話を

していただくとして、アジェンダに沿って1つここで今回サウジアラビアに関して、今の河内さんのお話ではMAGでワークショップの選定のプロセスに入るってことですが、こういうセッションを提案したとかでご披露いただくことはございますか？ 先ほど飯田さんからは、政府としては2件出されたというのがありましたけど、ワークショップっていうよりは別のことだと思いますが、ワークショップ今年出された方とか何かございますでしょうか？

河内： すいません、手挙げるべきですか？

加藤： 河内さんお願いします。

河内： 一応CFIECで、インターネットガバナンスに関する研究会を作ってます、上村先生に主査をお願いして、それ以外に委員の方、西岡先生と小宮山先生と山中先生と、プラスちょっと前に飯田さんと前村さんにも研究会に委員に入っていて活動してます。研究会の活動として、どういう意見をどういうところへ出していかってということをみなさんで検討していただいて、その1つとしてIGFでセッションを提案して、その中でみなさんで議論していただいて、何かそこにインプット、CFIECとしての意見を出していったらいいんじゃないかということで、今回ワークショップに一応研究会としてなんですけど提案者は私になってるんですけども、上村先生にモデレーターになっていただいて、マルチステークホルダーについて、今いろいろGDCの話を皆さんされてたと思うんですけど、GDCのあとマルチステークホルダーって、GDCによってIGFがどのように変わるか、まだ完全に分からない不透明なところが多いですけども、IGFがGDCによってどう変わるかによって、マルチステークホルダーの在り方っていうのも変わっていくんじゃないかと。そこらへんを、実際にワークショップやるのは12月なんで、その頃にはもうちょっとGDCが最終版ではないにしても見えてくるとすると、そこでいろんな人にどんなふうにマルチステークホルダーがあるべきかっていうのを議論していただいたらどうかっていうことで、それについてのセッションを提案しました。

一応ワークショップで出したものを、少し名前を変えてDay 0でも出しています。中身あんまり変えずにDay 0のほうにも出しました。それでいいですか？ あと、ちなみに全然関係

ないですが、去年の京都の IGF の報告書をみなさんにご協力いただいて書いてるんですけど、それについての、

前村： Launches and Awards です。

河内： Launches and Awards にも、京都報告書の紹介をするようなセッションを提案しています。どこまでどれが通るか分からないんですけども。もし通ったらみなさんにいろいろご協力とかもお願いできればと思うので、よろしくお願いします。議論をしていただければと思います。

加藤： ありがとうございます。他いかがでしょうか？ 前村さんとか、JPNIC さんも何か今回も出されたんでしょうか？

前村： JPNIC は出してないです。

加藤： 今回はお出しになってないですか。たぶんどこか他のテックコミュニティに呼ばれて参加されるのはあるんでしょうね。

前村： 今のところは声かかってないですね。今のところはっていうことは、たぶん声かからないでしょうね。

加藤： 分かりました。

河内： セッションを企画するほうからすると、とりあえず入れて出して、あとで実際に出てもらう人はその時考える的などころがあるなどすごく思ったので、まだこれからじゃないですかね。セッションが通るかどうかもまだ分かりませんし。

加藤： そうですね。分かりました。今、日本はそんな感じだっていうことで。もし何か共有していただくことがあれば、この場でもメーリングリストでも是非お願いしたいと思います。いろいろな人をご紹介したりし合うっていうのもいいのかなと思うので、よろしくお願いします。それでは何かサブスタンスに関することはありますか？ アジェンダに沿って言うと、この次は本チームの今後の状況、検討についてのご報告なんですけど、それ以前に何かいろいろなことに触れてきましたけど、追加事項等ございますでしょうか？ 特にないで

すか？ もしあれば、またメール等でも情報共有していただくということで。本チームの今後についての報告、まず私から簡単にさせていただきたいと思いますが、ここに書いていただいた通りです。10回目の準備会合をやりまして、先週の木曜日に11回目の準備会合をやりました。以前もご報告した通り、元々この活発化チームで議論してきた、たたき台という案に沿って、定款等の案をそこでご披露して、それに対してJPNICさんから修正案というのが出ていましたというところまで前回ご報告したんですけれども、その2つをご覧いただいて、先週16日の第11回の準備会合を前にして、総務省さんから修正案と言いますか、総務省案というものが定款の修正と言いますか、新しい提案をしていただきました。16日の11回目の準備会合では、総務省様からの定款の案をご説明いただいて、会の直前だったので、その時の理解のベースでみなさんから質問していただいて、次回12回目の準備会合を今まだ日程調整中ですが、今週末か来週、次回をやるということになると思いますが、その次回までにいろいろご質問があればメールベース、さらには12回目の準備会合で質疑応答をするという状況になっております。

というのが今の客観的な状況の報告なんですが、もしよろしければ簡単に結構だとは思いますが、総務省案について、こんなようなことを考えて提案していただいたってようなことを、もしこの場で共有していただくことができればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか？

西潟： いいですよ。ついでに議事録のほうも直していただければと思うんですけど、いくつかあって。総務省が提案したというよりも、準備会合でみなさんのコンセンサスの基に、加藤さんなりその流れで持っていったものと、JPNICからの間のギャップを埋めるための仲裁案としてご提案をしたというふうに変えてください。

加藤： 分かりました。

西潟： それから11回の準備会合については、ここは議事録には書かなくていいですが、発言録のほうでやりますからいいですけど、直前でっていうことを加藤さんからおっしゃいましたが、われわれからすると24時間以上前に出してますんで、読んでらっしゃらない方は意欲がない方だとわれわれは認識しています。

加藤：失礼しました。1日前というのが正確です。

西潟：みなさんの日程調整の結果なんでそこは申し上げませんが、よりにもよってこの日より後ろっていう最初の日にやっていただいたんで、われわれとしても24時間が最大限の努力でしたけども、24時間前には、役人だったら読んでなきゃそれはもうっていう話なんですね。それから、その上で中身のご紹介をすると、こちらの活発化チームに対して申し上げますと、加藤さんなり、ドラフトやってた人達の当初の思いと、JPNICさんのほうでのご懸念っていうので、それぞれあるのは分かりましたということがありました。それぞれの思いが、率直に言うとテキストにすごく反映されてらっしゃるんです。インターネットコミュニティとして、エンゲージメント、オーナーシップがあつてとても素晴らしいことだと思うんですけども。例えばこの活発化チームが今社団法人という形を目指してやってるわけなんですけども、一般社団法人としてですね。仮に社団法人化がなされた場合に、例えばこの法人として今までIGFの報告会であるとか、あるいはIGFのイベントとかも積極的にこの活発化チームでやってきたと認識してますけども、その時に総務大臣の後援取っていただくようなことが十分考えられえらると思うし、私としてはそういうふうになってもらうと、総務省としてはとても有難い。後援名義の申請があつた時は喜んでお出ししたいと思うんですけども、そういう時にわれわれこの新法人に限らず、結構数多な一般社団法人、あるいはそれ以外の社団法人・財団法人を含めて、この定款というものを見ている中で、例えばその法人の目的だったりとか、特に法人の前半側のほうの規定ですね、定款の。そのみなさんの思いっていうのは思いとして、私はここのチームの中で1年何カ月かお付き合いさしていただいているんで肌感覚は持っているつもりなんですけども、役人はこういう書き方しないよねって役人の感覚で提案させていただいて、JPNICさん、加藤さんそれぞれのほうからすれば、レッドライン（譲れない線）があればこの準備会合でまた議論を戦わせればいいと思うし、それ以外の方からも「この書き方はこうしたほうがいいんじゃないの？」っていうことがあれば、そういう提案は準備会合の中でやっていただいたらいいと。われわれとしたら一度役割は果たさせていただいたということで自負と自認をしてるということでございます。具体的なところをさらに申し上げますと、端的に実際に望月と私で、かなりインテンシブに作業させてもらったんですけども、私の主観の発言ですけど、個人の意見ですけど、完全に、この活発化チームって手作り感満載でとてもいいIGF活動をこれまでしてると思うん

です。特に京都が見えてからは、活発化チームとなられてってということからだと思うんだけど。その部分を活かしつつ、他方で仮に京都会合のレガシーということで、1つの形として社団法人化ということをするのであれば、たぶんこの活発化チームの中身の濃さを維持しつつということになると、そこそこ面倒は増えちゃうんです。そこは、法人ということですから、しかも社団公益エトセトラ、いわゆる新しい公共の枠組みの中で、わが国の中にも新しい公共の中でアウトロー行く人もたくさんいますんで、それも自由ですから、法に触れない範囲では。なんだけど、総務省と例えば後援名義とかいう話になると、いわゆる普通の社団法人って言い方を、この準備会合で私は何回かしてますけども、そこそこ面倒なところもあるので、そういったところもこの活発化チームの中の議論が落ち着いてから、もう少し時間がかかるかもしれませんが、共有していただきながら、今後どういうふうやっていくかっていうのをこの活発化チームのみなさんで考えていったらいいんじゃないかなと思います。今までのサブの深さを維持しつつ、枠組みも、ということなのかなと思いました。詳細のところは、もし定款とかお知りになりたい方は、準備会合に来ていただければ、誰でも入っていいはずだと思うんで、是非ご議論にご参加いただくと、私なんかから思いますけど、そこは加藤さんの仕切りもあられるかと思いますが、私からとりあえず気付いたところは以上です。

加藤： どうもありがとうございます。本当に望月様、西潟様の、きわめて短い時間で定款の案を準備いただいてありがとうございました。みなさんご質問ございますか？ 今最後に西潟課長言われた通り、繰り返しになりますけど、この準備会合というのは、この活発化チームの参加者誰でも手を挙げていただければ入っていただけますので、かなりの細かいことまで議論するので、その場で。今 14、5 人は入っていただいていますので、私も参加したいってことであれば入っていただいて、具体的な定款案の議論を参加していただくってことも可能だと思います。

西潟： あと加藤さん、1点だけ付け加え。ごめんなさい、さっき言い忘れまして。

加藤： お願いします。

西潟： この会合との関係で言うと、私この会合では以前から申し上げてたんですけども、いわゆる昔からある Japan IGF を、京都が終わって、この活発化チームっていうのは 2023 に

向けたチームですから、名前もそうですし、いわゆるリニューアルと言いますかアップデートと言いますか、なんなら正常化と役人からは言いたいんだけど、していただくいい機会にさせていただきたいのと、そこで縮小均衡っていうよりは、むしろ拡張均衡。ワンステージアップのアスピレーションのところに、この議論っていうのは目指しているもんだと理解しています。他方で今少なくとも総務省から、せっかくの機会でご提案をさせていただく機会をいただいた中で、この両方を綺麗に取る形をかなり目指しています。つまり、それぞれのお立場があるんですけども、総務省からすると NRI を何度か今申し上げたように、正常化でもアップデートでも更新でもいいんですけど、してほしいっていうのがまずプライオリティとしてあった中で、今までのこの手作りではある中で相当充実していると個人的には思ってる活発化チーム、いわゆる IGF 活動を角矯めず、かつ将来的な発展形としての枠組みとして社団法人化を目指すならば、それも取るというような、結構欲張りな提案をさせていただいています。その意味では NRI の部分のアップデートは必須。実はとてもプライオリティが高く書いたつもりなんで、活発化チームとしてはそちらの向きからもご覧いただくと有難いです。ありがとうございます。

加藤： どうもありがとうございます。ということで、活発化チームとしては、まずはこの準備会合で有志の方に細かい議論をしていただく、適時この全体会議でもご報告をするっていう形で進めさせていただきたいと思います。もし何か決まって次のステップに移るということになれば、必要なアップデートはメーリングリスト等でも必要な範囲においてやっていきたいと思っていますので、そこはご了承いただければと思います。何かご質問ございますでしょうか？ なければ1つご報告事項で、ここにいらっしゃる方何人かご参加いただいたんですが、先週金曜日に IGF France のルシアンっていう人が別の予定で来日していて、山崎さん、河内さんもいろいろとご調整いただいたんですが、あとは京都情報大学院大学の田中先生にちょっとしたミーティングの会場をご準備いただいて、そのあと有志合計9人ぐらいご参加いただいて、いろいろ意見交換をさせていただく機会がありました。あまりこういう機会、今まで活発化チームとしてはなかったんですけども、IGF France の場合、かなり政府と非常に近いということで、彼自身は来週の WSIS+20 の会だとか、そういうことにも参加するコンタクトがいろいろあるということで、貴重な情報交換が出来たと思います。ご参加

いただいた方、何か感想とかコメントございますでしょうか？ 山崎さんや河内さん含めていかがでしょうか？

山崎： カステックスさんは、かなりいろいろ帽子がおありの方で、民間のほうにもあるし、政府代表という顔もお持ちということでした。結構学術関係もコネクションが強そうな感じに思えたんですけども、やはり個々人がパワフルだとグループも強くなるというものの象徴だったような気がしています。私の印象はそんな感じです。

加藤： いろいろと調整いただきありがとうございました。河内さん、山崎さん実は「こういう人が日本に行くけど会わない？」っていうことを、先ほどの NRI で登録している山崎・河内・加藤の 3 人にアニャさん（国連 IGF 事務局の担当者）から連絡がありまして、それで急遽何かミーティングをセットしようということになったのが背景だったんです。それでショートノテイスでお声がけをしたら何人か入っていただいて、そのあと懇親会まで出来たというようなことなんですけど、その懇親会のアレンジでご苦労された河内さん、いかがですか？

河内： 個人的にはやっぱりダイレクトに話すと、素の話って言ったらおかしいですけど、人によって自分がどう考えてるかっていうのはいろいろあるので、それが必ずしも良い悪いとか正しい正しくないっていうのはいろいろあると思うんですけど、いろんなところから今 GDC に関わる IGF の話とかばらばらと聞こえてきたものが、やっぱりそういうのもあるのかなって、ほんとにどうか分かんないですけど、そういうところをダイレクトに聞けるって、とっても面白いなと。なかなかリモートだとそこまでいかないことも多いかなって感じがするので、とても面白かったです。これからもこういう機会がいろいろあるといいかなと思いました。

加藤： ありがとうございました。あと前村さんとか、さっき田中さんも言及しましたが、何か特にコメントとかございますか？

前村： 私のほうから特にはないです。ありがとうございます。

加藤： ありがとうございます。西潟さんから手挙げていただいているんですが、お願いします。

西潟：2つほどあって、1つ目は、こういうのは今河内さんが仰ってたように、こういうのこそ IGF 活動って言うんだと思うんですよ。コロナなくなったあとは。次のコロナが来るまでの間は少なくとも。なので、どこまで営業というかたちでアプローチされるかはさておき、少なくとも今の日本の NRI 代表されている加藤さん・河内さん・山崎さんのところは、そういう話があれば、いい加減なレベルでも拾ってきていただいて、海外 IGF の方の来日なんていうのは、積極的に機会を取りに行くといいなと思いました。それから2つ目は、フランスの方来日の場でのやり取りみたいなのって共有いただけるのかしらという。全然急ぎませんが、参考までになんで。このチームとしてなんかあるのであれば、そういう共有みたいなのがお願い出来ればと思いました。ありがとうございます。

加藤：ありがとうございます。その共有方法について検討させていただきます。僕も簡単にはメモ取ったんですけども。1番印象的だったのは、いろんな場に彼は参加しているんだけど、どこでもマルチステークホルダーの定義自身がはっきりしないよねということ。それはもう、いろんなところで話題になっていて、NETmundial もそうだし WSIS+20 の場でもそうだっていうことで、結構マルチステークホルダーの議論っていうのは盛り上がりました。その中で、日本で Civil Society ってなんだっていう話をしたら、Civil Society こそ場によっていろいろ定義が違うっていう、そこも盛り上がったところだったと思います。そういうことを意見言い合っただけで、結論が出たとかそういうことではないんですが、そういう話が最も私は印象的だったです。そのへんのマルチステークホルダーの問題について、もう少しアカデミックにも研究しているグループがあるということで、そういうのを紹介してもらいながら、意見を交換をする場を考えてくれるといいねっていう話も致しました。私からは、それが報告になるかですけども、内容についてはそのへんが1番印象的だったと思います。他の方いかがでしょうか？ 西潟さん、そういうコメントではちょっと足りないですか？ きちっとノートを取るような、フォーマルなミーティングを考えてなかったもんですから。

西潟：それはそれでいいと思うんですけど、要するに全員が全員毎回、可能な限りせっかく来てくれてんだから17日にミートできればそれはよかったんでしょうけど、来なかった人は知りませんっていうことなんですか？この会は？っていう問題定義と半分半分なんで、フォーマットとかは審議会の議事録みたいな作れなんて言うつもりはさらさらなくて、残す

べきことと残すべきでないことも当然混ざってると思うんだろうけどもっていうのを前提で申しあげてますけども、今日も口頭で言ったのが議事録で少しは残るっちゃうのはあるんでしょうけど、今日の会合も。今いみじくも加藤さんおっしゃったように Civil Society のなんたらがみたいな話は、準備会合で私が散々申し上げてることだし、通ずるわけです。だからそういうのは、共有いただけると大変有難いなってということで、申し上げた次第です。

加藤：ありがとうございます。他ご質問とかございますか？ 直前のノータイスで、うまくいけば出たかったなという方もいらしたかもしれないですが、そういう方は大変申し訳なかったですが、それでも人数集まっていたいて、田中先生のところで場所も提供していただいて、参加された方は盛り上がったのかなというふうに思います。実際シットダウンのミーティングは1時間弱で、そのあと飲み会中心だったんですけども、そういう会議でございました。そういう意味で、こういうことをもう少しフォーマルにもいろんなことが今後できていくと、NRIとしての位置づけももっと明確になってくるのかなと思いました。あと、どなたかご質問とかご発言等はございますか？ もしなければ、次回についてですけども、3週間後は6月10日。4週間後は6月17日ということですが、私は元の予定に戻して4週間後でもいいかなと思ってはいたのですが、いかがでしょうか？ 先ほどの準備委員会との関係で早めにやったほうがいいっていうようなご意見があれば、3週間後という考えもありますし。

西潟：10日はICANN（会議）です。

加藤：そうですか。

西潟：17も帰国後で死んでるかもしれませんが、まずリアルに10日はICANNです。

加藤：ということであれば、一応17日ということで死んでる西潟さんだと困るんですけども、次回は17日ということで決めさせていただいてよろしいでしょうか？

西潟：前村さんも一緒に死んでるかもしれませんが、分かりません。

前村：大丈夫です。それなりに出てきます。

加藤：少なくとも物理的に日本にいらっしゃれば。

西潟：行き先が先進国じゃないんで。

加藤：そうですね。じゃあ次回は6月17日ということで、もしそれまでに準備員会で何かあれば、この会にご報告なり必要があれば、メールでやるという前提で。かつ、準備委員会への質問等があれば、やはりコンタクトしていただくという前提で、次回は6月17日ということにさせていただきたいと思います。それでは、また今日も長時間にわたって皆さんありがとうございました。非常な貴重な情報交換ができたと思います。それではまた1カ月後よろしくお願ひします。どうもありがとうございました。